

## は し が き

都市においては、交通量の増大と共に、道路は車両の通過する道としての機能が優先され、歩行者や沿道居住者にとってはその生活道路としての利便性よりも、むしろ生活環境を悪化させるものになりつつあります。一方、このような道路沿道の環境改善対策として、沿道環境整備法や道路構造令の改正等により、植樹帯や緑地を道路に設け、道路そのものの環境を改善して、沿道の生活環境を保全していこうとする沿道整備が行われつつあります。

このような道路に併設される植樹帯や緑地は、単に、無機質な道路に緑の持つ変化性、例えば四季による変化等を与えるばかりでなく、都市に線的な緑の空間を生み、都市生活者に憩いや潤いを与えるものと考えられます。また緑は大気の浄化や騒音の緩和等の機能を有することが言われており、道路の緑化は道路交通公害の対策としても利用可能であると考えられます。

横浜市公害研究所は、開所以来道路交通公害防止に関する研究を進めていましたが、昭和57年度から横浜国立大学建築学科内に道路環境研究会を組織し、この組織が中心となって、道路騒音対策の一手段としての植樹帯の防音機能について研究しています。この研究は植樹帯の物理的減音効果に加えて心理的減音効果をも評価しようと試みたものです。59年度までの研究から、物理的効果についても、心理的効果についても、ほぼ定量的に把握することができました。ここに過去3年間の研究成果をまとめて報告する次第です。この研究は非常にユニークなものとして自負しておりますが研究開始以来わずかに3年であり、まだ未解明な問題や今後発展させねばならぬ課題等多々あります。関係各位の御批判と御意見を賜われれば幸いです。

なお現地調査に際して、横浜市緑政局中部公園緑地事務所に大変お世話になりました。また模型実験に際しては、神奈川県公害センターが無響室を、東京大学生産技術研究所・橋研究室が音源のジェットノズルを、共に快く御提供下さいました。ここに謹んで深く感謝の意を表します。

1985年 3月

道路環境研究会代表 後藤 滋

研究担当者名簿

道路環境研究会

代表	後藤 滋	教授	横浜国立大学工学部 建築学教室環境工学研究室
	遠山 三樹夫	教授	同 教育学部 生物学教室
	田村 明弘	講師	同 工学部 建築学教室環境工学研究室
	石崎 伸二 (57年度)		東京大学生産技術研究所 大学院博士課程
	遠藤 仁 (57, 58年度)		フジタ工業(株)技術研究所
	中丸 直実 (57年度)		広島県立宮島工業高等学校
	勝山 里美 (57年度)		(株)大林組集合住宅部設計課
	真鍋 弘幸 (58年度)		自営
	鈴木 弘之 (58, 59年度)		横浜国立大学大学院
	大池 秀明 (59年度)		同上
	松島 規之 (59年度)		(株)竹中工務店
	鈴木 裕 (59年度)		日本生命(株)不動産部
	湯本 克彦 (59年度)		(株)東洋情報システム

横浜市公害研究所

鹿島 教昭  
中村 俊亮